東京科学大学　保健衛生学研究科

未来創成ナーシングリサーチセンター

（Nursing Innovation Research Center：NIReC）

２０２３-２０２４年度

事業計画評価

NIReC
Nursing Innovation Research Center

【センター事業概要】

未来創成ナーシングリサーチセンター（Nursing Innovation Research Center: NIReC）は、【研究×実践の循環を促進し、看護科学の未来を創る】を理念とし、看護学研究の発展や促進を目指した臨床と研究の循環や看護学と他領域とのコラボレーションへの取り組み、看護師のキャリア育成のための学習機会の創出を主たる目的に据えた活動を展開する。

センターの活動は、国立大学法人東京科学大学第４期中期目標に則した活動を計画・展開する。

【国立大学法人東京科学大学　第４期中期目標】

１）SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）及び Society 5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会）に象徴される現代社会の潮流を意識しつつ、医療系総合大学の特色と強みを活かして得られた教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元することを第一の目標とする。

２）先導的な医療を担うサイエンティフィック・クリニシャン（科学的な視点で診療ができる医療人）を育成する教育体系及び環境を整備するとともに、医学研究を先導し牽引するクリニシャン・サイエンティスト（臨床的な視点をもった研究者）の育成に挑戦する。

３）「トランスレーショナル・リサーチ（橋渡し研究）」に焦点を当て、学内の研究と臨床の連携を促進させる。次世代医療に繋がる先進的かつ特色のある基礎・臨床研究を行い、世界屈指の「トータル・ヘルスケア」研究の拠点確立を目指す。

４）新型コロナウイルス感染症への対応経験を活かし、パンデミック等の非常時の迅速かつ柔軟な医療及び先端的な研究を基盤とした平時の最高水準の診療の両立を可能とする強靭な医療体制を構築する。

５）四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）をはじめとした大学間連携及び産業界を含む官民連携を活かし、首都圏における医学教育・研究・臨床のネットワークを拡充する。そこに集約される叡智の成果を広く国内外に提供・発信するべく「トータル・ヘルスケア」拠点の機能を強化する。

６）構成員が互いに「多様性と包摂性」を重視し、各自が多様な能力を高めつつ「自律と協調」を発揮することにより、構成員の総力を挙げて未来社会の創造に貢献する大学運営を行う。

【活動目標】

1. 看護界を牽引する研究開発（大学第四期中期目標：１，３）
2. 看護学の研究力及び研究基盤強化（大学第四期中期目標：１，３，５）
3. 学術的エビデンスや成果の発信（大学第四期中期目標：１）
4. 看護学領域の研究力・教育力向上に寄与（大学第四期中期目標：１，２）

＜２０２３年度計画に対する評価＞

【全体計画】

1.　組織体制の構築と運営体制の整備（活動目標２に対応）

→評価：内規の改訂やコア会議・部門会議の設定など運営体制の整備は概ね行うことができた。

2.　研究基盤構築と成果発信体制の整備（活動目標２，３に対応）

→評価：ホームページの制作、マッチングイベントの開催を実施することができた。

3.　教育機会の創出と国内外ネットワークの強化（活動目標２，４に対応）

→評価：特別研修会の開催（宅香菜子先生）、ワシントン大学への視察、シアトルにある医療保健福祉施設の見学と意見交換を実施することができた。

→評価：特別研修会の開催にあたり、日本公衆衛生学会と日本医療・病院管理学会の後援を受け、学外からも多くの参加者を集めると同時に、学外組織にも当センターについての認識を高めることができた。

【臨床研究循環部門】

1.　看護臨床・研究に関する学習機会提供の為の研修開催（活動目標４に対応）

→評価：特別研修会の開催（宅香菜子先生）を企画し、研究科教員・学生のみならず、病院看護師や学外看護系研究者に対する学習機会を提供することができた。

2.　臨床現場・看護職に関連する研究計画の立案・実施（活動目標１に対応）

→評価：臨床研究循環部門の教員で研究チームを立ち上げ、看護学生および看護師を対象とした調査計画の検討・立案に取り組むことができた。

3.　大学病院看護部×保健衛生学研究科との共同研究の推進（活動目標１，２，４に対応）

→評価：看護部研究推進室との連絡調整を行い、看護部×保健衛生学研究科との連携のきっかけとなる会議を臨床研究循環部門で設定し、研究支援体制の構築に取り組むことができた。

4.　看護領域における臨床と研究の循環・看護師のキャリア育成に関する情報　収集のための国内外視察（活動目標２，４に対応）

→評価：ワシントン大学の視察を行い看護系研究者との交流をするとともに、シアトル近郊の医療保健福祉施設の見学と研究者との意見交換を行い、ネットワーク構築や海外の看護系研究者の臨床との共同や研究の在り方についての知見を深めることができた。

【東工大連携部門】

1. 東京工業大学との共同研究促進に向けた相互理解のための交流機会の創出と共同研究プロジェクトの発足（活動目標１，２に対応）

→評価：マッチングイベントを開催し、共同研究に向けたきっかけを提供することができた。

→評価：共同研究を開始したプロジェクトへの研究資金の提供を行い、研究費獲得までのプロジェクトの立ち上げからの動き出しの支援を行うことができた。

→評価：東京都との連携事業として実施されていたプロジェクトを学際研究に展開し、発展させることができた。

2. 企業との産学連携促進のための関係構築、プロジェクト立案（活動目標１，２に対応）

→評価：鹿島建設×東京工業大学×東京医科歯科大の共同研究に関する意見交換・打ち合わせを複数回実施し、共同研究の実現に向け企業のニーズと本学研究者が提供できるスキルとのすり合わせを行いながら、いくつかのプロジェクトテーマを提案することができた。

→評価：NIReC の支援によりスタートしたプロジェクトの１つ（テレワーク労働者における運動機能向上プログラム：月野木教授）が産学連携研究として展開された。

3. 看護学×他領域との共同研究促進に向けた取り組み（活動目標１，２に対応）

→評価：学内外で開催されるマッチングイベントへの参加を行い、産学連携や他領域との共同研究機会について情報収集を行った。東京工業大学教員が中心となり運営されている EISESiV コンソーシアムの取り組みについての説明会を開催し、保健衛生学研究科教員にも参加していただくことができた。

＜２０２４年度計画に対する評価＞

【全体計画】

1.　研究基盤構築と研究成果発信（活動目標３に対応）

→評価：ホームページを制作し、NIReC が支援する研究・プロジェクトの成果報告の掲載を行うことができた。

2.　教育機会の創出と国内外ネットワークの強化（活動目標２，４に対応）

→評価：分野主催の研修会・セミナー開催の支援を実施し、研究科教員・学生をはじめ、大学病院看護師に対する学習機会を提供することができた。

3.　センター活動の対外的発信機会の設定（活動目標３，４に対応）

→評価：ホームページの完成・公開を開始し、NIReC 関連のイベント報告や研究成果報告の掲載を行う等に活用することができた。

→評価：看護系学会でのブース設置と広報を予定していたが、公開・報告可能な資料が不足しており、実現は出来なかった。

→評価：本学看護分野の国際的な知名度向上のため、PR 動画を制作・公開することができた。

【臨床研究循環部門】

1.　看護臨床・研究に関する学習機会提供の為の研修開催（活動目標４に対応）

→評価：分野主催の研修会・セミナー開催支援を実施し学習の機会を提供した。

→評価：大学病院看護部研究推進室が主催する研究発表会にて、研究発表に関する講義を実施し（塩澤特任助教）、看護師が研究発表するための学習機会に貢献した。

2.　臨床現場・看護職に関連する調査研究の実施（活動目標１，２に対応）

→評価：交代勤務看護師を対象とした研究について Web 調査を計画・実施することができた。

3.　大学病院看護部×保健衛生学研究科との共同研究・プロジェクト立案（活動目標１，２，４に対応）

→評価：「はたらきやすい病院プロジェクト」の立案と看護部および保健衛生学研究科での説明を行い、参加教員の募集などプロジェクト実施体制の構築に向けた準備を進めることができた。

4.　看護領域における臨床と研究の循環・看護師のキャリア育成に関する情報収集のための国内外視察（活動目標２，４に対応）

→評価：メルボルン大学との連携に関する議論を開始し、病院勤務看護師を含めたキャリア形成や学習機会を提供するための計画を進めることができた（谷口教授）。

【学際融合研究部門】

1. 東京工業大学との共同研究プロジェクトの展開・促進（活動目標１，２に対応）

→評価：東京工業大学教員に限らず、幅広い学際研究の推進を目的とした研究支援金を設置し、複数プロジェクトの立ち上げに貢献することができた。

→評価：生命理工医療科学専攻の教員からの要望を受け、FD 研修にて NIReC が支援した旧東京工業大学研究室との共同研究経験について発表する機会を設定した。NIReC の活動の一部を対外的に発表することができたと同時に、旧東京工業大学研究室との連携経験のない他の研究科の研究活動推進にも貢献することができた。

2. 企業との産学連携研究の計画、進行（活動目標１，２に対応）

→評価：鹿島建設×東京工業大学×東京医科歯科大の共同研究に関する意見交換・打ち合わせを継続してきた。保健衛生学研究科教員の参加は再検討することとなったが、相互の専門性や共同の在り方を検討できたことで、今後の産学連携や学際研究に関する示唆を得ることができた。

→評価：NIReC の支援により産学連携へと展開された研究から、複数の学会発表を行うことができた。

3. 看護学×他領域との共同研究促進に向けた関係構築、新規開拓（活動目標１，２に対応）

→評価：学内・学外でのマッチングイベントやシンポジウム（コンソーシアムなど）への参加を行い、学外他領域の研究者との情報交換や連絡先交換などの繋がりを持つことができた。

【事業評価】

＜全体評価＞

2023～2024 年度は、未来創成ナーシングリサーチセンターの活動方針を提示し、運営体制や構成員の再編、コアメンバーによる定例会議の開催など、組織運営の基盤を構築することができた。また、大学病院看護部の研究推進室の一員として保健衛生学研究科の教員が定例会議やイベントに参加するなど、研究科と病院の研究が発展する体制を構築できた。

また、広報に関しては、ホームページの開設および運営を行い、本センターの広報活動の基盤構築を行った。ホームページを用いて NIReC で開催した研修会の報告や動画の共有、支援した研究の成果報告などにも活用し、本センターの活動内容を周知するプラットフォームとしても機能している。さらに、保健衛生学研究科の PR 動画を制作し、本学看護学分野の国内外での知名度の向上に向けた広報活動に貢献した。今後は、国内外の学会での広報活動を進めるとともに、NIReC としての研究実績を蓄積してくことが課題である。

＜臨床研究循環部門＞

臨床研究循環部門では、より質の高い医療や看護の実現および患者や医療従事者等のウェルビーイングを実現していく上で、臨床看護師、看護教育・研究者にとって有益な様々な取り組みを展開するため、教育機会の提供や大学病院看護部との共同研究に向けた様々な活動を実施してきた。教育機会の提供としては、講師を招いての特別講義の企画・運営や分野主催の研修会・セミナーの支援を行い、保健衛生学研究科教員・学生をはじめ、看護師を含む病院職員にも臨床や研究に活用可能な学習機会を提供することができた。さらに、特別研修会の開催にあたり、日本公衆衛生学会と日本医療・病院管理学会の後援を受け、学外からも多くの参加者を集めると同時に、学外組織にも当センターについての認識を高めることができた。

また、交代制勤務看護師の労働環境や心身の健康・QOL やワークモチベーション、健康管理に関するアンケート調査を実施し、NIReC の部門活動として研究の計画・実施にまで到達することができた。2025 年度には研究成果を分析し、論文投稿または学会発表する予定であり、NIReC として研究成果を示す段階に進める予定である。さらに、看護部との共同研究プロジェクトとして「はたらきやすい病院プロジェクト」を提案し、保健衛生学研究科および看護部に対して説明・調整を行ってきた。2024 年度時点では具体的なプロジェクトの始動には至っていないものの、附属病院で働く看護師と共同して働きやすさの提案や、デバイスを用いた健康状態の実態把握やモニタリ

ングというアプローチを次年度から開始する為の準備を進めている。看護師のはたらきやすさを検証する取り組みは本学オープンイノベーションセンターにも相談し、産学連携や事業としての展開可能性も検討しているものの、共同研究に向け看護部と認識のすり合わせを行いつつ協力体制を確立するには、未だ時間を要する見込みである点は課題である。一方で、臨床で働く看護師が研究者とチームを形成し、研究協力者ではなく共同研究者として主体的にプロジェクトの遂行に関わるという構造や、病棟勤務と研究活動の両立を目指すため、看護師が勤務時間内に研究活動時間の一部を実施できるような働き方の提案も本プロジェクトの目標の一つである。リサーチホスピタルを目指す病院組織にも働きかけながら、臨床の看護師が研究に取り組む体制整備の実現に向けた方法を検討していくプロセス自体が、今後の看護研究の発展に寄与する知見になると期待される。そのため、研究科教員（塩澤特任助教）が毎月開催される看護部研究推進室会議に参加するほか、指針対象外研究の看護部専門委員会の外部委員として参加するなど、看護部および研究推進室との連携強化のための活動も継続していくことで、プロジェクトの実現に向けた看護部と保健衛生学研究科との連携体制構築に寄与すると考えられる。

その他、現在豪国メルボルン大学との連携を検討中である。臨床で働く看護師のための研究学習プログラムへの参加や、短期留学のマネジメントなどの活動展開も計画しており、今後も大学病院で働く看護師や研究科教員、学生の学習機会やキャリア形成に貢献するための機会提供に向けた活動が期待できる。

＜学際融合研究部門＞

学際融合研究部門では、看護の学問領域に留まらない多様な分野・領域との融合、コンバージェンスによりお互いの専門性を活かした相互作用による看護学の発展と社会への貢献を目指した活動を活性化させるべく、研究支援を展開してきた。2023 年度には、旧東京工業大学教員との複数回のマッチングイベントを通して発足した 6 件に対して、2024 年度には研究科全体を対象として研究助成の応募を行い、採択された 9 件のプロジェクトに対して研究支援金の提供を実施した。

研究助成によって、外部資金獲得前の段階から必要備品の購入のほか調査の実施や学会発表まで実施できたプロジェクトもあり、研究知見を早期に社会に向けて発信するとともに研究プロセス全体の迅速化にも貢献した（詳細は下記表を参照）。さらに、当部門で支援した学際研究が産学連携研究（野村不動産、野村不動産 L&S）へと展開し、NIReC で支援したプロジェクトが外部資金を獲得しながら発展するロールモデルを示すことができた。また、東京都との連携事業として展開されていたプロジェクトについても、マッチングイベントを通じて旧東京工業大学研究室との学際研究に発展

し、NIReC からの支援金助成を受けて更なる成果創出が可能となった。NIReC からの研究助成によって、外部研究費を獲得する前から研究を始められることは、将来的な外部資金の獲得にも寄与することが期待される。次年度以降の外部研究費獲得状況を確認することで、研究助成の効果についても検証することが望ましい。

部門活動として、個別の研究室・プロジェクトを対象としたマッチングイベントも開催したが、共同研究には至らなかった。また、鹿島建設と旧東京工業大学研究室との共同研究プロジェクトについて 1 年近く会議や視察、プロジェクト提案などを行ってきた。今回は保健衛生学研究科を交えての研究展開は実現しなかったが、相互の専門性や共同の在り方を検討できたことで、今後の産学連携や学際研究に関する示唆を得ることができた。マッチングイベントの開催方法や産学連携における共同研究締結については、本学オープンイノベーションセンターや URA をはじめとする学内外組織への相談を継続しつつ、方法を検討する必要がある。

生命理工医療科学専攻の教員より、NIReC の活動による旧東京工業大学研究室との共同研究に関する経験を紹介してほしいとの要望を受けた。NIReC 担当者による発表者のコーディネートを行い、FD 研修にて学際融合研究部門の教員 2 名（月野木ルミ教授、佐々木吉子教授）より、当部門が支援した旧東京工業大学研究室との共同研究に関する発表を行った。他の研究科にも NIReC の活動の一部を発表・共有することは、NIReC の活動が保健衛生学研究科の研究推進に留まらず、学内全体の研究推進や学際研究の発展にも貢献しうると考えられた。

○支援金助成を行った研究による成果（報告書を参考に集計）

学会発表	5 件
論文採択	0 件（査読対応中 3 件）
外部研究費の獲得	2 件
学内研修会での発表	2 件
産学連携への発展	2 件
その他（具体的な内容として報告に足るもの）	教材開発（１件）

＜次年度以降の展望＞

・「はたらきやすい病院プロジェクト」の実現に向け、継続的な看護部との関係構築や連携の強化。

・産学連携研究を推進し、学際研究における看護の貢献や学際研究の遂行に関する知見を得る。

・メルボルン大学をはじめとする海外の大学との連携窓口としての機能を高め、教員や学生のほか、大学病院に勤務する看護師の学習・キャリア形成を支援する活動を展開する。

・研究支援金の支出については、予算規模を縮小しつつも将来性のある研究立ち上げまたは成果発表のための支援を検討する。

・ホームページや PR 動画を効果的に活用し、保健衛生学研究科の広報活動を行うとともに NIReC の取り組みについても学内外に周知する活動を展開する。

・NIReC での研究活動やプロジェクトを推進していくためにも、外部資金の獲得に向けた動きを重要ミッションとして取り組む。